

(青森西部)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要  
 本遺跡は、青森市西部を東流する新城川の右岸標高5m前後の沖積地及び微高地上に立地する。本調査は、東北新幹線新青森駅(予定)

周辺)周辺の土地区画整理事業に伴うもので、一六カ所のトレンチを設定し実施した。検出遺構は、土坑・溝・ピットで、土坑の埋土中に平安時代に降下した白頭山―苦小牧火山灰の堆積が認められ、陶磁器・砥石が遺構外から出土している。

青森・高間<sup>たかま</sup>(六)遺跡

1 所在地 青森市大字石江字高間

2 調査期間 二〇〇一年(平13)一〇月―十一月

3 発掘機関 青森市教育委員会

4 調査担当者 木村淳一

5 遺跡の種類 集落跡

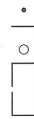
6 遺跡の年代 平安時代・近世・近代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

木簡は六トレンチ内の現地表面から約二〇cm下の腐食土層から出土した。その約五cm下から前述の火山灰の自然堆積層が面的に確認され、平安時代以降と判断できる。

8 木簡の積文・内容

(1) ・「。佐



(45)×19×4 019

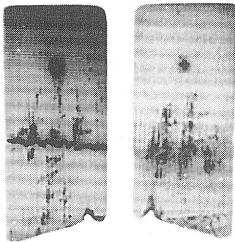
上端は方頭、中央に穿孔が見られる。下部は欠損する。また、表面の上端及び左上端部は面取りされている。

なお、釈読にあたっては弘前大学の鐘江宏之氏のご教示を得た。

9 関係文献

青森市教育委員会『市内遺跡発掘調査報告書』(二〇〇二年)

(木村淳一)



(赤外線写真)

